

令和6年度 大豆栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

重点対策

- ①有機物や石灰質資材の積極的施用 ②除草剤と培土で雑草防除 ③的確な中耕培土で根域拡大 ④畦間かん水で英数確保

月	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月							
	中・下旬		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
	排水対策(額縁等)・土づくり				播種・出芽期			草丈・節数増加期			開花期			英伸長期			子実肥大期			黄葉期・落葉期			収穫期		

生育のイメージ

〈今年の目標〉

- 一、単収250kg/10a
- 二、大粒比率50%
- 三、3等以上の比率50%

適期刈取の播種期の組み合わせ

早播きは避ける (青立ち・英先熟・英すれ粒防止)

刈取適期圃場

主な作業

排水対策 土壌改良 種子消毒 耕起施肥播種 除草剤 1回目培土 2回目培土 除草剤 畦間かん水 (開花期、晴天が3日以上続くと見込まれる場合) 1回目防除 2回目防除 排水対策 収穫乾燥調製

1.排水対策

①水口はしっかり止める ②額縁排水溝は早めに設置 ③排水溝は深く掘り下げる

排水対策の効果

- ・碎土率が上がり発芽・苗立向上
- ・除草剤の効果向上
- ・根量・根粒菌の増加
- ・茎疫病、黒根腐病の発生抑制

3.種子消毒

病害虫防除の種子消毒は必ず実施

使用薬剤	処理方法
クルーザーMAXX	原液8ml/乾燥種子1kg

4.耕起・施肥・播種

・作業速度を落とし低速のロータリー回転で行う
・作土深15cmを目安に深耕する

肥料名	10a当たりの施用量	
	単作	麦後
化成肥料オール14	17~22kg	30~35kg
BB基肥084	25~30kg	40~50kg

5.培土

・土壌が乾いている時、晴れ間をみて早めに実施
・培土の効果高める為、適期に2度行う
・適正な作業速度で株元まで土をかける
・培土後の溝の手直しと排水口への連結

効果

- ・根域の拡大・雑草の抑制
- ・排水の促進・倒伏防止

品種	播種時期	栽培本数(本/10a)	播種量(大粒)(kg/10a)
えんれいのそら	5月6半旬~6月上旬	14,000~16,000	5.2~5.9
	6月中旬	16,000~18,000	5.9~6.7
シュウレイ	5月6半旬~6月上旬	12,000~15,000	4.8~6.0
	6月中旬	15,000~18,000	6.0~7.1
オオツル	6月上旬	10,000~12,000	4.0~4.8
	6月中旬	12,000~14,000	4.8~5.6

6.畦間かん水

・開花期頃から9月上旬までに行い着花不良や落花を防ぎましょう
・圃場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水する

7.収穫・乾燥・調製

・収穫前に大型雑草や青立ち株の抜取りの徹底
・露がなくなってから刈取りを行う
・刈取りの高さは地際から10cm以上とし、土を捲込まない
※90%以上英が褐色になったら刈取り始め(子実水分22%)
・収穫後は子実水分14%になるように丁寧な乾燥を行う
・丁寧な選別・調製と、清掃徹底で異物混入を防止する

刈取始期	刈取始期
80%	90%
27%	22%

【褐色割合】 【子実水分】

2.土壌改良

収量・品質向上の為、有機物を積極的に施用

資材名	施肥量(10a)
発酵ケイフン	150kg
堆肥	1t

土壌pH6.0~6.5を目標に生育量を確保

資材名	施肥量(10a)
苦土石灰	100kg

除草剤

時期	品名	散布量/10a	使用方法	特記	使用時期	使用回数
播種後	エコトップP乳剤	500ml+水100L	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
	エコトップP細粒剤	4~6kg	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
生育期間中	パワーガイザー液剤	200~300ml+水100L	全面散布	一年生雑草(アサガオ類)発生揃期~2葉期	出芽直前~3葉期	1回
	ナフ乳剤	150~200ml+水100L	全面散布	イネ科雑草3~5葉期	収穫30日前まで	1回
	ポルトフロアブル	200~300ml+水50~100L	全面散布	イネ科雑草3~10葉期	収穫30日前まで	1回
	大豆バサグラン液剤	100~150ml+水100L	全面散布	イネ科を除く一年生雑草	大豆2葉期~開花期	1回
ハスタ液剤	300~500ml+水100~150L	畦間処理	雑草生育期	大豆生育期	3回以内	

難防除雑草対策
生育が進むと防除が難しいので発見したら抜取り、除草剤を散布する

アサガオ類
イヌホウズキ

病害虫防除

体系	農薬名	散布量/10a	対象病害虫	散布時期(収穫前日数)	總使用回数	
基本防除	粉剤	トライトレポン粉剤DL	3kg	紫斑病 フタスジヒメハムシ カメムシ類	1回目 8月上旬(14日前まで) 2回目 8月中旬(14日前まで)	2回以内
	液剤	カスケード乳剤	800ml+水25.6L	カメムシ類 ハダニ類	1回目 8月上旬(7日前まで)	2回以内
		プランダム乳剤	800ml+水19.2L	紫斑病	1回目 8月上旬(7日前まで)	2回以内
		トレボンエア	800ml+水6.4L	カメムシ類	2回目 8月下旬(14日前まで)	2回以内
液剤	トライフロアブル	800~1600ml+水6.4~25.6L	紫斑病	2回目 8月下旬(14日前まで)	2回以内	
臨時防除	粉剤	マラソン粉剤3	3kg	アブラムシ・ハダニ類	発生始期(7日前まで)	3回以内

高温の時期が続くとハダニの被害が出ます。収量や品質に影響するので注意!